

平成30年度 障がい者団体助成事業 報告

番号	団体名	事業名	事業の目的・概要	助成金
1	公益社団法人 銀鈴会	食道発声における上級者用教材「講義編」及び「実技編」	銀鈴会では声を失った会員さんに代替音声の訓練指導をボランティアで行い、社会復帰の支援を行っている。発声教室は初心、初級、中級、上級クラスの4つがあり、発声の進歩に伴い昇格していくが、上級者対象の指導書は特になく、昨年度講義用の「上級クラス食道発声上達の手引き」が出来上がった。しかし、発声の実技用としての「上級クラス教材」は未着手だったため、本年度は上級の実技教材を完成させた。	200,000
2	ゆりねの会	雪で遊ぼう	年1回、盲ろう児が雪を感じスキーを体感する。盲ろう児1人に対し3～4人のスキー経験者が支援を一緒にゲレンデをすべりスキーを楽しむ。立位が難しい盲ろう児には、バイスキーを利用し支援者とともにすべる。家族だけでは支援できないため、多勢の支援者の力でスキーを楽しむ。	200,000
3	ブーケ（若い女性オストメイトの会）	ワールドオストミーデーイベント	世界オストミー協会（IOA）では3年ごとに、10月の第一土曜日をワールドオストミーデー（WOD/オストメイトを知ってもらう日）とし、世界各地で関連のイベントが開催されている。本年10月6日はWODに当たるため、オストメイト自身による企画のイベントを開催し、当事者同士の交流や情報交換の場とし、広く一般にも参加を呼びかけ、「ストーマ」に関する正しい知識を広める機会にしたい。	200,000
4	特定非営利活動法人筋無力症患者会	筋無力症的「筋肉貯金カレンダー」制作・配付	重症金無力症は、病態的に「運動することにより、筋力低下や脱力が生じる病気」とされ、医師も患者も、過度な運動を避け無理はせず、安静第一と考えられていた。日常生活の中で継続したりハビリ（運動）により、筋力量を保ち、QOLの向上を図ることが出来るということが、一昨年から実施している理学療法士、専門家による勉強会（講演会）でわかってきた。しかしながら、「どこまで、どのくらいの運動だったらいいのか」「どんな運動だったらいいのか」「継続して行うにはどのようにすればよいのか」など、わかりにくいのが現状であった。理学療法士、専門家による講演で勉強する時間を設けると共に、正しいリハビリ（運動）の方法や運動のポイントを指導してもらい、日々の運動や成果をチェックすることができる機能を備えたカレンダー「筋肉貯金カレンダー」を制作・配付する。	200,000